

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス がじゅまる		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 15日		令和8年 2月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	令和8年 3月 5日		令和3年 3月 12日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	共感的で手厚い個別支援とチーム体制	特性に応じた基準以上の手厚い人員配置を行い、全スタッフが温かく見守る一体感のある支援を徹底しています。	支援の質を均一化するため、面談や現場の気づきを即座に全スタッフへフィードバックする仕組みを定着させます。
2	保護者との深い信頼関係と迅速な連携	連絡帳アプリや送迎時の対話を通じ、親御様の小さな悩みも真摯に受け止める誠実な対応を心がけています。	蓄積したデータを「成長グラフ」として可視化し、お子様の歩みをより深く共有できる仕組みを構築します。
3	自主性を育む構造化された環境と支援	視覚支援を用いた環境設定や、自己決定を促す選択肢の提示を行い、お子様の「自分でできた」という達成感を大切にしています。	お買い物体験などのライフスキル項目を可視化し、将来の自立に向けた長期的なキャリアデザインを共に描きます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	外部機関・地域住民との交流機会の不足	感染症対策への配慮や、近隣施設との連携体制が十分に構築できていなかったことが要因です。	地域の公園や施設訪問、グループ内イベントをさらに計画し、お子様の社会性を育む機会を積極的に創出します。
2	法人内研修の頻度と専門性の共有	グループ内交流に留まり、地域住民や児童発達支援センター等の専門的な助言を支援に活かす機会が少なかったためです。	法人内研修を月数回に増やし、外部専門家の助言を具体的にどう支援に落とし込むか検討する時間を充実させます。
3	保護者・きょうだい支援の多様なニーズへの対応	保護者様への日常的な助言や相談対応は行えているものの、家族全体を支える「研修会」や「きょうだい支援」の定期的・組織的な実施には至っていません	ニーズの把握を再徹底し、まずはアンケート等で要望の多いテーマから、オンライン活用も含めた「参加しやすい支援プログラム」を段階的に企画・実施